

## Mr. Hamish Stott へのインタビュー



2016年9月から今年3月まで企業会計基準委員会（ASBJ）において、英語の先生をしていただいていた Mr. Hamish Stott へのインタビューを掲載いたします。

**Q** ご出身はどちらですか？

**A** ニュージーランドのクライストチャーチで生まれ育ち、東京に来る前はオークランドに住んでいました。

**Q** クライストチャーチについて教えてください。

**A** クライストチャーチはニュージーランド南島中部、カンタベリー平野東海岸側に位置する都市です。人口34万1000人のかなり小さな町にもかかわらず、国内では2番目、南島では最大の人口です。緑溢れる街並みから「イングランド以外で最もイングランドらしい街」と称されています。市内には740を超える公園が設置され、「ガーデンシティ（庭の街）」と呼ばれています。

**Q** 日本へはいついらしたのですか？

**A** 2015年4月です。

**Q** ASBJで働く前は、日本で何をしていたのですか？

**A** 私は東京に来る前に、大学院の入学試験の勉強をするため、1年間京都に住んでいました。この間、私は京都大学に通ってました。日本語を一生懸命勉強した結果、東京大学を受験し、見事合格することができました。

**Q** 簡単な学歴と経歴を教えてください。

**A** 2011年から2015年にはオークランド大学で数学と経済学を勉強し、それぞれの学士を取得しました。2015年から2016年にかけては京都大学の経営学研究科で研究生として在籍し、2016年から東京大学大学院経済学研究科に在籍し、2018年に経営学修士号を取得しました。そして、2018年4月から資産運用会社のブラックロックに入社します。

**Q** どうして日本の大学で勉強しようと思ったのですか？

**A** 私は、高校と大学で2度、日本に短期の交換留学をする機会があり、その際、いつか日本で働くということが、私の夢になりました。しかし、当時の私の日本語では不十分でしたし、興味があった金融への理解を深めたいと考えていたので、日本の大学で修士の勉強をするため、日本政府文部科学省の奨学金制度に申し込みました。この奨学金は、ニュージーランド全体から毎年数人しか選ばれない狭き門であったため、私は必死で日本語を勉強しましたし、研究

テーマや、大学の教授についての調査も怠りませんでした。私は日本語専攻ではないので不安もありましたが、権威ある文部科学省の奨学金を獲得できたとの連絡があった時の喜びは、今でも忘れられません。

**Q** 東京大学でどのようなことを勉強していましたか？

**A** 経済学研究科の中で、数量ファイナンスという、かなり数学的な分野です。

**Q** ASBJ にどのような印象をお持ちですか？

**A** 面接を受けるまでは、正直にいうと、ASBJについて全く知らなかったです。しかし、入ってからわかったのは、ASBJでは独特な勤務環境の中で、豊富な経歴や経験のある方々が働かれているということです。

**Q** 英語でのコミュニケーションについてアドバイスはありますか？

**A** 何よりも練習です。毎日が忙しい、

ASBJのみなさんにとって、難しいかもしれませんが、毎日少しずつ練習して、積み重ねることによって、コミュニケーション能力を向上することができるはずです。

**Q** 日本で生活するうえで、最も困ったことは何ですか？

**A** ゴミの分別をすることです。日本は利便性が他の国より、かなり高いのですが、これは全く逆です。ニュージーランドではリサイクルを行っています、ゴミは個別に分別されていないです。燃えるゴミと燃えないゴミの考え方も存在しません。

**Q** 最後に何かありますか？

**A** ASBJで行なった週1回の英語レッスンを通じて、私から英語を教えるだけでなく、ASBJの皆様から会計の専門的な知識、豊富な社会人経験等を教えてもらうこともできました。皆様の今後のご活躍とASBJの今後の発展をお祈りしています。

